

がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供する方策に関する検討  
～宮崎県内および自施設における取り組みから～

研究分担者 宮崎大学医学部附属病院患者支援センター 鈴木斎王（特別教授）

研究要旨

宮崎県では本年度、サポートブック、サバイバーによる座談会、絵本朗読の三つの方法で、情報提供を試みた。いずれもこれまでの方法よりも有効であったと考えるが、検証が必要である。また、患者会との合同会議は医療者とは異なった視点での意見が得られるために有用であった。

A. 研究目的

がん診断時等の患者にごん診療施設（がん非拠点病院を含む）で適切に情報提供する方策の検討  
宮崎県での情報提供・啓発活動の取り組み

B. 研究方法

当院および宮崎県がん対策協議会情報提供相談支援部会として、令和5年度に取り組んだ情報提供、啓発活動について報告する

（倫理面への配慮）  
特になし

C. 研究結果

1. 宮崎県の患者会との連携を図るために、2か月に1度の患者支援センター（がん相談支援センター）と患者会役員との合同会議を開催することとし、後述の活動について患者会の参加があった。  
2. 宮崎県では発行されていなかったがんサポートブックの作成、配布を行った。内容については、既発行県を参考にするとともに、内容やレイアウトについて患者会からの意見を取り入れて作成した。また、啓発用のチラシを作成して患者会と共に宮崎市の繁華街で行われるイベントで配布した。  
3. 講演会はAYA世代向けに企画し、メインにAYA世代のサバイバーおよび治療中の患者の座談会を開催した。医療者の参加も半数程度あり、参加者アンケートでは8割以上が「非常にためになった。」との回答が得られた（会場参加者40名、同時配信40名、オンデマンド228アクセス）。また、情報提供方法として、絵本の小児への読み聞かせと大人への朗読会を開催した。県立図書館での開催であったため参加者は少なめであったが、絵本作者の講演では、患者等への配慮した内容など、医療者に役立つものであった（参加者45名）。  
講演会は同時配信およびオンデマンド配信を行っ

た。

D. 考察

病院でのがんサロンや勉強会の開催では、受診中の参加者が中心となり、参加者数は少ないままであったが、病院外での開催により参加者数は増加した。また、患者会との合同会議により、医療者が企画する内容とは異なった視点が加わることで、啓発効果が上がったのではないかと考える。今後効果の検証が必要である。

E. 結論

情報提供方法は様々あり、効果的な方法を模索する必要は今後もある。また、患者会の参加は必須であるといえる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし